



✓ 大学の国際競争力の低下

世界において、評価の低迷している日本の大学の評価が更に下がることに対する懸念

✓ 「東京 対 地方」の構図が日本全体にとって マイナス

世界のGDPに占める日本のGDPの比率が相対的に低下することに対する心配

✓ 若者の夢をつぶすことへの心配

学生が進学先を検討する際、圧倒的に教育内容を重視



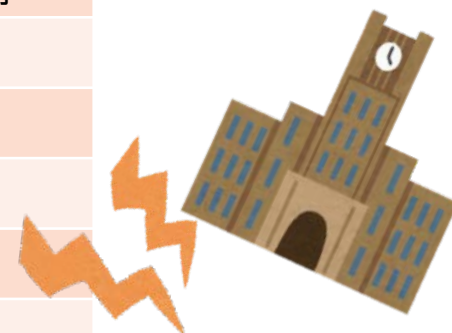
国の規制は大学の国際競争力の低下を招くのでは？ ～どうすれば日本の大学の国際的評価が上がるか～

- ✓ タイムズ・ハイヤー・エデュケーション「世界大学ランキング2018」において、日本の大学で200位以内にランクしたのは、46位の東京大学、74位の京都大学のみ。**東京大学は昨年から7ランクダウンし過去最低**
- ✓ アジアのランキングにおいても、東京大学は2018年では前年の7位から順位をさらに下げて8位となっている。

2017	
1位	オックスフォード大学
2位	カリフォルニア工科大学
3位	スタンフォード大学
4位	ケンブリッジ大学
5位	マサチューセッツ工科大学
	⋮
24位	シンガポール国立大学
29位	北京大学
	⋮
39位	東京大学
	⋮
91位	京都大学



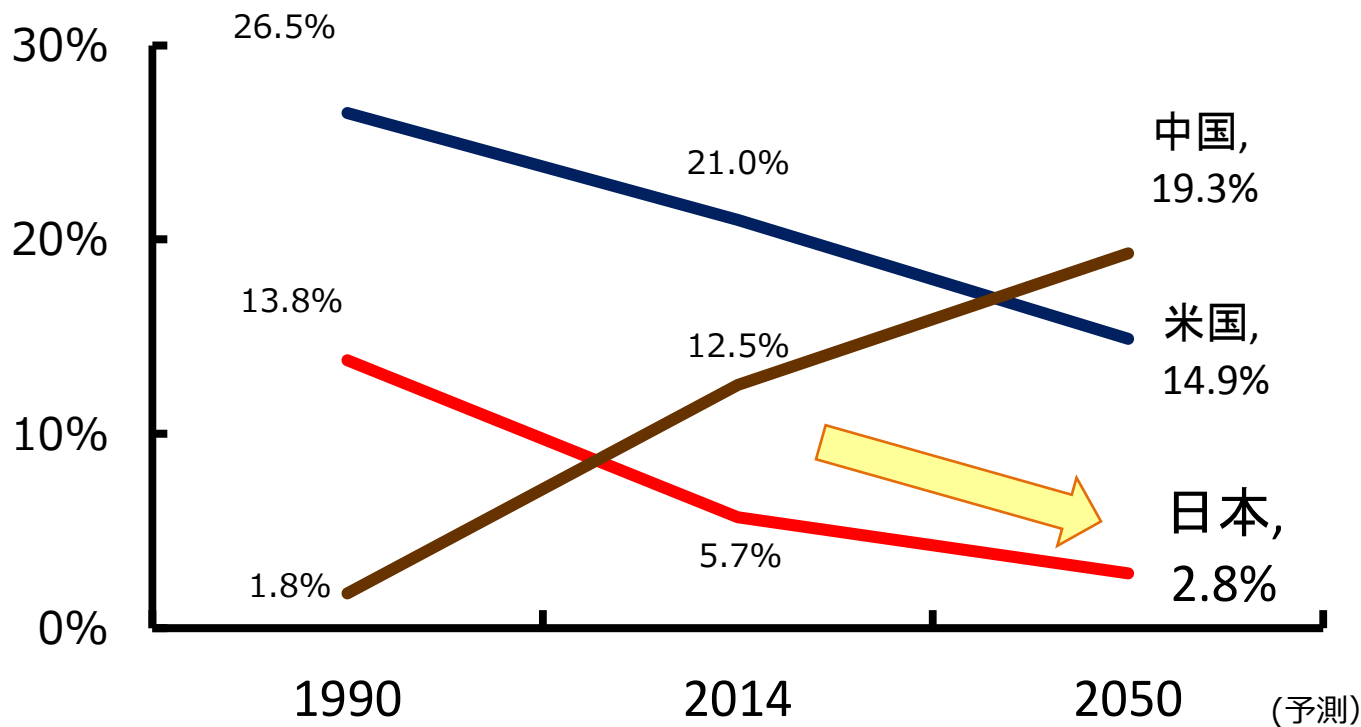
2018	
1位	オックスフォード大学
2位	ケンブリッジ大学
3位	カリフォルニア工科大学
3位	スタンフォード大学
5位	マサチューセッツ工科大学
	⋮
22位	シンガポール国立大学
27位	北京大学
	⋮
46位	東京大学
	⋮
74位	京都大学



「東京対地方」の構図は日本全体にとってマイナスになるのでは？ ～本当の地方創生のためには何をすればいいのか～

- ✓ 我が国のGDPは、バブル絶頂の1990年には世界におけるシェアが約14%と世界第二位であったものの、2014年には半分に低下
- ✓ 2050年には、一層の低下が予想されている。

<各国GDPの世界経済に占めるシェア>



学びたいという若者の夢をつぶしていいの？

～場所限定されることなく、若者が学びたいことを学べるようにするにはどうすればいいか～？

- ✓ 高校生等が大学進学先を検討する際、「学びたい学部等がある」、「資格取得に有利である」など圧倒的に教育内容を重視
- ✓ 「環境」、「交通の便」などの立地関係は極少数

＜進学先検討時の最重視項目＞（進学者（浪人含む）/単一回答；単位%）

○上位3項目

学びたい学部・学科・コースがあること

27.1

資格取得に有利であること

7.9

就職に有利であること

5.8



【参考】立地関係

自宅から通えること

5.3

勉強するのに良い環境であること

1.0

交通の便が良いこと

0.7

遊びに行くのに便利な立地であること

0.2

人気の高い地方大学の例

国際教養大学 (秋田県)



- ・すべて英語の少人数授業
- ・1年間の海外留学が義務
- ・多文化共生のキャンパスライフ
- ・多彩な可能性を広げる進路選択支援
- ・多彩な人材を発掘する入試制度
- ・THE世界大学ランキング日本版2017の「教育満足度」1位

(国際教養大学公式HPより)

金沢工業大学 (石川県)



- ・「自ら考え行動する技術者」を目指して、問題発見から解決にいたる過程・方法をチームで実践しながら学ぶ
- ・アトリエ「夢考房」、仲間とのアイデアの発散・まとめが自在にできる「イノベーション・スタジオ」等を設置
- ・専門分野の教員の5割を企業出身者で構成

(金沢工業大学公式HPより)